

張家口

2074

REEL No. A-1229

0135

アジア歴史資料センター

外機密

昭和17 五五四一八 暗、張家口 六月二十七日午前發
本省 二十七日後着

東郷外務大臣

渡邊總領事

第一七七號ノ一（部外極秘、館長符號扱、至急）

（大橋顧問及軍對立問題ニ關スル件）

一、大橋最高顧問及其ノ周圍ト駐蒙軍及興亞院連絡部トノ對立ニ鑑
ミ客月二十二日軍務局官本中佐來張ノ次第ハ北京發賣大臣宛電
報ニテ御承知ノ通りナルカ其ノ際大橋顧問ハ官本ニ軍カ推薦ヲ
取消スニ於テハ夫レ迄ナルモ自分ニハ辭意ナク若シ軍カ自分ヲ
留ムルニ於テハ仕事ヲ委サレ度シト述ヘタル由ナルカ官本ハ引
續キ德王及吳政務委員長ヲ往訪シ其ノ胸中ヲ探リタル處兩名ハ

電信寫

M

大橋罷免ノ場合彼等モ辭職スヘキ意ヲ洩ラシタル由（此ノ點嚴
密ナルモ官本ハ他方軍司令官以下ノ強硬意見ヲ聽取シテ離張セ
ル趣ナリ其ノ後岡村方面軍司令官來張ノ際大橋ノ進退ニ付協議
アリタル形跡アリ（續ク）

2075

外機密

昭和17 五五四二四 暗 張家口 六月二十七日午前發

本省 二十七日後着

東郷外務大臣

渡邊總領事

第一七七號ノ二(部外極秘、館長符號扱、至急)

ニ興亞院側ノ意嚮ハ過般南京ノ連絡部長官會議ノ席上岩崎長官ヨリ反映セラレタル通りニシテ大橋排斥ノ空氣濃厚ナリ

三最近久光駐日代表部參事官田中兵務局長ノ意ヲ受ケテ來張セルモ未タ大橋内蒙旅行ヨリ歸還セサルヲ以テ旨ヲ傳ヘサル由ナルモ仄聞スル所ニ依レハ田中局長ヨリノ傳言ハ大橋ニ圓滿辭職ヲ勸告スル意思ヲ以テ歸朝ヲ促セルモノナル由ニテ徳王等ハ中央ニ於テハ未タ推薦ヲ取消シ居ラサルヲ以テ多少形勢緩和ノ餘地

電信寫

アリト觀測シ其ノ筋ニ運動シ居ル趣ノ聞込アルモ司令官以下軍側ノ意嚮ハ大橋顧問ノ留任ヲ欲シ居ラサルヲ以テ大橋ノ歸還(徳王ノ招電ニ依リ二十六日夕ノ豫定)ヲ控ヘテ徳王等ハ煩悶シツツアル由ナリ(續ク)

2

2076



電信寫

昭和17 五五四二六 暗 張家口 六月二十七日 前發
本省 二十七日 後着

京郷外務大臣

渡邊總領事

2077

第一七七號ノ三(部外極秘、館長符號扱、至急)
四本官ハ事感斯クナルコトヲ憂慮シ既ニ大橋ニ再三再四友人トシ
テ身自ラ又ハ大橋ニ面談ノ機會多キ森岡ヲ通シテ主張又ハ感既
ノ緩和ヲ諮リタルカ蒙古獨立問題ニ關シ時期ヲ俟ツコト、公開
ノ席上言動ヲ慎シムコト等ノ點ニ付反省ヲ得タルモノノ如キモ
專面子又ハ主義上ノ問題ニ關スルモノナル限り殊ニ其ノ性格ニ
於テ吾人ノ願望ニ副ハレサリシヲ已ムナキ次第トハ存スルモ力
足ラサリシヲ遺憾トスルモノナリ(南京ハ外信)
北大、南京へ轉電セリ

外機密

昭和17 五五四三七 暗 張家口 六月二十七日午後
本省 二十七日夜着

渡邊總領事

東郷外務大臣

第一七九號（部外極秘、館長符號扱）

（大橋最高顧問辭職問題）

往電第一七八號ニ關シ

大橋最高顧問二十七日午後來訪軍ノ要望（軍ハ大橋ノ張家口ニ居
ルコトヲ好マスト言ヘル由）ニ依リ日本ニ歸ルコトニナレルカ（軍
務局ノ意ヲ受ケタル田中局長ノ内意ハ東京ニ歸リタル上辭職セラ
レタシトノコト）徳王其ノ他ノ動搖ハ之ヲ防止シ置キタル由、徳
王ノ熱望ニ依リ無意味ノコトトハ存スルモ名義上引續キ最高顧問

電信寫

（徳王ハ蒙古人ノ最高顧問ト言ヘル由）タルコトニ同意セル旨内

話セリ（右名義保有ノ點目下軍ニ於テ協議中）

右不取敢（南京ハ外信トス）

冒頭往電通り轉電セリ

2078

外機密

電信寫

昭和17 五五六六一 昭 張家口 七月四日發
本省 五日前置

東郷外務大臣

渡邊總領事

第一八四號（館長符號扱、外機密）

（大橋顧問歸朝ノ件）

往電第一七九號ニ就シ

大橋氏一應現職ノ儘四日發歸朝ノ途ニ就ケリ

因ニ軍側ニ於テハ當分最高顧問ヲ置カス連絡部長官ヲシテ其ノ職
務ヲ代行セシムル意嚮ノ如シ御參考迄

南京ハ外信扱トセラレタシ（部外極秘）

南京、北大へ轉電セリ

2079

外機密

昭和17 五六九一三 暗

張家口 八月二十日後發
本省 二十日後着

東郷外務大臣

渡邊總領事

第二二九號ノ一(極秘、館長符號扱)

(大橋顧問解任ノ件)

貴電第一八三號ニ歸シ

山本東亞局長へ

マ軍及興亞院側ヨリノ聞込ミヲ綜合スルニ大橋顧問ノ電報ニ依リ
蒙古政府日系要人へ德王ニ同顧問ノ解任ヲ傳へ解任ノ手續ヲ執
ルコトヲ懇求セルニ德王ハ之ニ對シ意思表示ヲ拒ミタルヲ以テ
政府要人へ更ニ大橋氏在職中ノ辛勞ヲ多トスル趣旨ノ大橋氏宛

電信寫

電報ヲ作成德王ニ提出セルニ(軍ト關係ノ上ト推察セラル)德
王ハ是ニ對シ軍參謀長ト種々懇談結局大橋氏ノ解任ヲ認メタル
由ナルカ其ノ際自分ノ口ヨリ言ヒ出スコトハ大橋氏ヲ無理ニ引
張リ出シタル關係ニ於テ又蒙古人全體ニ對スル信譽ヲ失墜スル
コトトナルヲ以テ最高顧問ノ職止ヲ俟ツテ自然解任ト仕度曾
申出タル趣ナリ(外ヨリノ聞込ミニ依レハ其ノ際德王ハ參謀長
ニ最高顧問ヲ置カサル方針ナリヤヲ玉度訊シタルニ參謀長ハ是
ヲ肯定シタルヲ以テ德王ハ然ラハ最高顧問制廢止ニ依リ自然解
任トスルコト然ルヘシト持テ出シ參謀長之ニ同意セル由ナリ)
尙軍及興亞院側ニ德王カ解任ヲ認メタルヲ以テ大橋氏ハ斯ク心
得然ルヘシトノ言ヲ漏スモノアリ(外ヨリノ聞込ミニ依レハ軍

2080

外機密

電信寫

参謀ノ中ニハ軍ノ威カヲ以テ徳王ヲシテ解任ヲ明言セシムヘキ
ナリト稱シ参謀長ヲ徳王ノ義弟ニ同輩シタルコトニ不審ヲ推テ
居ルモノ有ル由

(續ク)

208i

外機密

昭和17 五六九一五 暗 張家口 八月二十日後發
本省 二十日後着

東郷外務大臣

渡邊總領事

第二二九號ノ二(極秘、館長符號扱)

ニ德王ハ本官ノ大橋顧問辭意取扱振リニ關スル質問ニ對シ暫ク思
案シタル後言難相ニ同人轉職受諾セスト旨ハシテ外ナラヌ實官
ナレハ打明ケムニ實ハ已ム無ク同意セルカ解任形式ニ付テハ目
下研究中ナリトヤツト漏ラセルヲ以テ其ノ心中ヲ察シ話題ヲ他
ニ轉シタル次第ナリ

電信寫

三、政府ヨリ本官ノミナラス他ヘノ(脱?)當初ハ依然大橋總務廳
長ニ務取扱名義ニシテ一般人ハ薄々大橋氏ノ離任ヲ感付キ居ル

モ未發表ナルヲ以テ事關ニ疑惑ヲ抱キ居ルモノノ如ク又政府部
内ニハ頭無キ意味ナル現狀(實際上ハ竹内内政部長總務廳ノ
任事ヲ統ヘ居ルモノ)ニ不滿ヲ抱キ居ルモノアル由ナリ
政府ト與取院トノ關係ハ竹内、沼野ノ如キ政府上級者ト岩崎長
官又ハ門脇總務部長トノ間ハ現在迄ノ處ハ良好ナルモ其ノ下ノ
間柄ハ依然トシテ面白カラサルモノアル如ク見受ケラル又或ル
モノハ政務ノ實際ハ門脇ト木村政務參謀トニ依リ動サレツツア
リト稱ス
右不取敢尙本件内容ヲ大橋顧問ニ御漏シノ際大橋顧問ニモ御如
才無キコト乍ラ取扱ニ一層ノ慎重ヲ期セラルル様御話請フ

(了)

2082